事業創造大学院大学

J Press

Published by Graduate Institute for Entrepreneurial Studies

Vol.47

2017年4月発行

社会と大学を結ぶ情報誌

contents

❶トピックス ❷❸座談会 ❹インフォメーション

TOPICS
ビジネスプラン・研究成果発表会

日頃の研究成果を学外の支援者に対して発表

ビジネスプラン・研究成果発表会

演習委員会委員長 教授 唐木 宏一

事業計画や研究の成果を披露するイベント

2017年2月25日（土）、第4回ビジネスプラン・研究成果発表会が開催されました。その名称の通り、学生各自が取り組む事業計画や研究の成果を披露するイベントですが、各学期末におこなわれる学内のプレゼンテーション行事とは異なり、ゲストを招いてのディスカッションや、来場いただいた学外の支援者（ベンチャーキャピタルや金融機関、経営コンサルタント等）を交えた意見交換もおこなわれます。今回は、研究成果2件とビジネスプラン1件について発表がおこなわれたほか、交流会の時間を利用したポスター発表もおこなわれました。

ゲストも登壇しての研究成果発表

メイン会場となった本学10階大講義室ではまず、今年3月に本学を修了した学生2名が各自の修士論文のエッセンスを発表しました。ファム・ホアン・アインさんによる「EPA協定に基づくベトナム人看護師介護士候補の受け入れの現状と課題」では、県内の病院事務長にも登壇いただき、受け入れる側と受け入れられる側それぞれの事情を踏まえつつ、望ましい結論をどのように導くことができるか、フロア参加者も交えた活発な議論が行われました。続く岡村誠さんによる「総合型地域スポーツクラブにおけるクラブ理念のオーナーシップに与える影響」でも、調査に協力いただいたクラブのマネジャーらに登壇いただき、クラブ理念の浸透から話題を広げ、ベンチャー企業と経営理念など、幅広く自由に意見交換することができました。

左：ファム・ホアン・アインさん　右：岡村誠さん

具体的で力強いビジネスプラン

交流会を挟んでおこなわれたビジネスプランの発表は、昨年4月に本学に入学したバトサイハン・エンフトゥブシンさんによる「モンゴルの観光資源の価値の最大化～観光事業～」でした。構想中のビジネス全体のうち、初期の事業についてはすでに必要なリソースの供給元やサービスの供給先が決まっていることもあり、具体的で力強い発表は聴衆の強い関心を呼びました。

バトサイハン・エンフトゥブシンさん

交流会でのポスター発表

研究成果発表とビジネスプラン発表の間には、会場を隣のスカイラウンジにかえて、交流会がおこなわれ、本学学生が学外の支援者に積極的に話しかける姿を見ることができました。また、この時間を利用したポスター発表では2名の学生のビジネスプランのポスターが掲示され、プレゼンテーションが行われました。

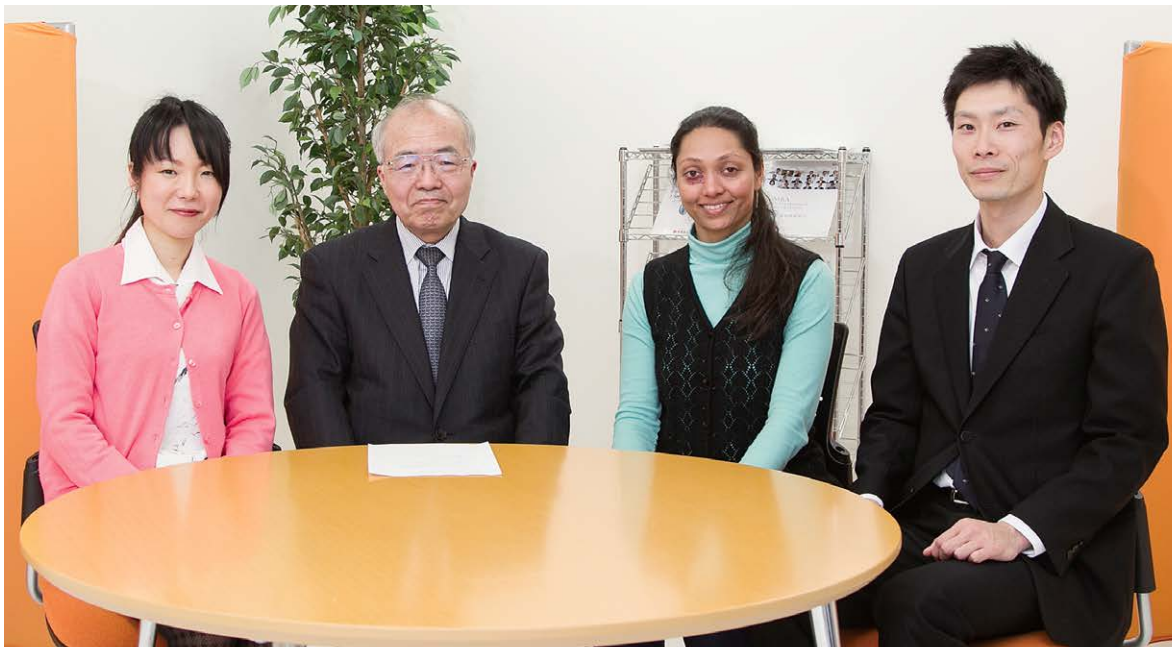
発表会は貴重な機会

学外からのゲストを招いての発表は、発表者本人にとって、学内だけでは得られない新たな視点からの指摘を得る機会となることはもちろんですが、参加した在学生にとってもそれらの議論を体感することで異なる刺激を得られる場となります。また、本学での研鑽の成果を外部に発信する機会でもあります。年に1回のこのイベントを、今後ますます盛り上げていきたいと思います。

CROSS TALK
座談会

事業創造大学院大学の人材の多様さ
～学長・学生による座談会～

多種多様な人材が集う本学では、学生同士が互いに刺激し合い、新たなアイデアを得て、将来につながる交流が行われています。
共に学びながらも背景が異なる3人の学生と仙石学長との対談から、本学で学ぶ意義を見い出すことができます。



座談会参加者
左から
中沢 伴美さん
仙石 正和学長
シャラカ ガジャナン マノハルさん
渡辺 安之さん

入学のきっかけや目的は様々

仙石学長（以下、学長）：皆さんは、どういった経緯で本学に入学しようと思ったのですか?

渡辺安之さん（以下、渡辺）：私の家は新発田市で葬儀社を営んでいますが、葬祭業も時代の変化とともに変わりつつあります。葬儀社として今後どう会社を運営していくか、自分一人で働きながら考えるというのは難しくて。そんなとき、本学に通っていた地元の仲間に勧められたことがキッカケで入学しました。

中沢伴美さん（以下、中沢）：私は現在、新潟の会計事務所に勤めています。元々は東京で別の仕事をしていましたが、これからの人生を考え始めたころ、父親の仕事である会計・法務関係に興味を持つようになりました。働きながら勉強を始めた頃に、税理士試験の科目免除申請が可能となるこの大学院を知り、入学を決意しました。

シャラカ　ガジャナン　マノハルさん（以下、シャラカ）：インドで通訳として、12年ぐらい働きました。仕事は楽しかったのですが、新しいことをやってみたいと思うようになった頃、母校と交流協定を結ぶ事業創造大学院大学について知りました。将来につながるこの機会を試してみたいという気持ちが強くなり、入学に至りました。

よりグローバルな人的ネットワークの構築

学長：本学は皆さんに限らず、性別や国籍、年代も様々な学生が共に学ぶ場となっていますね。本学に入学する前から、大学院で多様な人脈を構築できると予想していましたか?

渡辺：私に入学を勧めてくれた友人からは、日本人の話しか聞いていなかったので、学生は日本人ばかりだと思っていました。今考えると、その人は夜の講義を履修していたからですね。私は仕事の都合で、昼間に大学院へ通っていたのですが、逆に昼間は日本人が2人、他は全て留学生という状況でした。

中沢：私は入学前に参加した説明会で、世界各国からの留学生が学んでいると聞いていましたので、入学前から交流を楽しみにしていました。でも渡辺さんと反対に、大学院へは仕事が終わってから夜に通っているので、履修する学生は日本人が多いです。なので、自分から日本人・留学生問わず、気になる人に声をかけて交流しています。

仙石 正和学長

学長：本学には優秀な留学生が多いので、ぜひたくさんの友人をつくってください。これか

らは日本国内だけでなく、世界各国とネットワークを作っておくといいですね。

シャラカ：私は入学して最初は昼間に授業を受けていたのですが、もっと日本人と交流したいと思い、1年の後期から夜の授業へ変更しました。自分から接点を求めていくと友人がどんどん増えますよね。初めて色々な国の学生とも出会うことができました。私は他の留学生よりもだいぶ年上ですが、仕事の経験がない留学生からもたくさん学ぶことがあります。

渡辺：シャラカさんや留学生は、外国からきて学んでいる姿勢がすごいと思います。遊びも授業も、今だからできることに思いっきり取り組んでいるので、その姿に刺激をもらっています。

渡辺 安之さん

シャラカ：私もインドでは行ったことのない場所がたくさんあります。そんな風に、いつでも出来ると思うと動かない傾向があると分かったので、今はできること、やりたいことを意識して積極的にやるようになりました。

渡辺：次のチャンスはいつ来るか分からない。ビジネスも一緒ですね。

中沢：留学生は、修業期間は2年間しかない、短い、と分かって毎日を過ごしている、という印象があります。

研鑽から生まれる強い結束

学長：皆さんはお知り合いのようですが、何かキッカケはあったのですか?

渡辺：同じ授業を取っていたんです。ものすごく為になった授業ですが、大変だったよね!?

中沢：すごく大変な授業でした。先生が一方的に話をする講義ではなく、論文や本などを読み、ディスカッションするんです。お互いを研鑽しあってやってきたので、辛さも共有しました。

学長：グループで話し合う授業ですか、それはいいですね。まさに「同じ釜の飯を食った」ですね。

渡辺：自分なりに出した答えについてプレゼンテーションし、それに対して先生や学生で意見を言い合うのですが、先生の指摘が鋭く心に刺さりました。毎週課題があり、私も理解するのに苦労したので、留学生はよくついてきているなと感心していました。

シャラカ：大変でした。私は日本語関係の仕事をしていましたが、それでも論文を読むのは難しいですね。

シャラカ ガジャナン マノハルさん

学長：今の授業を聞いていると、大学院の研究発表の前段階と同じですね。自分で考え、あるいは調査し、発表して、意見交換し、さらに考えをまとめあげていく。これは非常に重要なプロセスです。何度も行っていくうちに、できるようになりますよ。

中沢：ある意味、苦楽を共にしたからこそ、仲間になれたと思っています。ただ集まっただけであれば、今の3人の関係にはならなかったと思います。

大学院で学ぶ意義とは

学長：ぜひ学生の皆さんには、この大学院の中で辛い思いをしてほしいし、恥をかいてほしいと思っています。一番怖いのは大学院を修了し、外へ出て行ったときです。事業創造をして自分が経営者や責任者になったときに恥はかけない、誰も同情してくれないし教えてくれる人もいない。失敗できないから今、大学院で訓練しているのです。

渡辺：恥をかきたくないので、学生1年目はすごく自分を繕っていたのですが、2年目になってようやく、ここで間違えておかないと、と実感できてきました。仲間同士でも言い合えるようになり、学ぶ意味を改めて再認識しました。

中沢：業種、職種が違い、また国が違うたくさんの仲間とともに、研鑽し合い学べる環境に満足しています。こんな充実した学生生活を過ごすことができ、一歩を踏み出して良かったと本当に思っています。

中沢 伴美さん

シャラカ：私にとっても、大学院で学んでいるからこそ出会えた仲間たちとのネットワークは財産です。

学長：これから世の中は、様々なものの進歩により産業が変わり、職業が大きく変わっていく可能性があります。未来を頭に入れて、学んだことを生かしてほしいと思っています。学んだことが答えになるのではなく、自ら考えることが重要です。考えに考えて、そして研鑽していく訓練の場として、本学を活用してもらいたいと思っています。

「税理士試験科目免除」という選択肢で税理士を目指す

税理士試験「科目免除申請認定」により本学修了生が税理士試験合格

本学は、税理士試験科目の一部免除申請が可能となる「税法演習」、「会計演習」を開設し、税理士試験5科目合格者を輩出しています。

税理士資格とMBA取得により、会計や税法だけでなく、幅広い経営関連の知識、実践的スキルを身につけることで、経営者の多様なニーズに応えられる税理士を目指すことができます。

税理士試験科目制度の流れ

- 税法2科目免除申請の場合
  - ・税法に関する科目を一定単位以上履修
  - ・税法演習の履修
- 会計1科目免除申請の場合
  - ・会計学に関する科目を一定単位以上履修
  - ・会計演習の履修

→ 学位論文審査に合格し、本学を修了 → 国税審議会へ研究認定（科目免除）申請 → 審査 → 税法2科目免除 / 会計学1科目免除

※詳しくは本学Webサイトをご覧ください。

INFORMATION

特別講義

参加対象：在学生、修了生、一般の方

本学の教育理念に賛同する著名な学識者、起業家、経営者の方々から客員教授に就任いただき、年間を通じて特別講義を行っております。一般の方々にも受講いただけるよう広く公開しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。（参加無料・要予約）

2017年 6月3日㊏
10：30〜12：00

『身近な課題から
テーマ別ブランド戦略を考える』

日本ブランドアソシエイツ株式会社
代表取締役CEO
豊隅 優 客員教授

2017年 7月1日㊏
10：30〜12：00

『激動の時代を生き抜く！』
〜経営の起爆剤ベンチャービジネス〜

株式会社ワイズ・ナビ
代表取締役社長
佐藤 義孝 客員教授

オープンキャンパス

参加対象：入学を検討されている方

開催日 2017年 6月10日㊏・7月8日㊏

本学では、入学を希望・検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催致します。オープンキャンパス終了後には、専任教員との懇談や個別相談の時間も用意致します。将来起業を志す方、事業承継者やビジネスリーダー、税理士試験合格を目指す方を対象に開催しております。ぜひこの機会にお気軽にご参加ください。（参加無料・要予約）

オープンキャンパス プログラム	
13:15	受付開始
13:30〜14:00	【第1部】大学院説明・科目等履修説明
14:00〜15:00	【第2部】本学教員によるMBA特別授業
15:00〜15:30	【第3部】入学試験概要説明
15:30〜	施設見学、個別相談（※希望者のみ）

MBA特別授業 6/10 担当教員：仙石正和 学長
テーマ：「IoT・ビッグデータ・AI 時代のビジネス」

※7/8のテーマは決まり次第、本学Webサイト等でお知らせいたします。

入学試験 2017年秋学期（10月）入学

出願受付期間	入学試験日
7月18日㊋〜7月26日㊌	8月5日㊏
8月21日㊊〜8月30日㊌	9月9日㊏

※詳しい大学院情報をご希望の方は、下記までお問合わせください。大学院のパンフレット及び募集要項等を無料でご送付致します。

事業創造大学院大学

JPress 編集・発行／事業創造大学院大学 広報委員会
〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46
TEL 025-255-1250 FAX 025-255-1251
URL http://www.jigyo.ac.jp/
e-mail info@jigyo.ac.jp